

◆第6回

日時	令和4年11月15日（火） 午後3:30～午後5:00
場所	市役所6-1大会議室
テーマ	障がい者の「親亡き後」のためにできること
参加	関係団体 9名 関係機関 10名 一般・特定・障害児相談事業所 15名 指定管理、委託事業所 7名（合計 41名）
内容	<p>重度の障がいのある人は、自分の状況や思いを言葉で伝えること等が困難なため、本人のことを理解している家族が、本人の特性や日常生活に必要な支援、親としての思いや願いを記録し、あとに託す支援者へつないでいくことが大切であるとの思いから、障がい者の「親亡き後」の問題に取り組んできた「いぶき福祉会」より、「親心の記録（一般社団法人日本相続知財センターグループ発行）」を活用しながら、わが子の幸せをたくすエンディングノートプロジェクト’に取り組んできた思いを語っていただいた。</p> <p>また、岐阜市障害者総合支援協議会において関係者による協議のもと、就学や進級などの際にスムーズで切れ目のない支援が受けられ、様々な生活場面で周囲の人に理解してもらうために、療育などの支援を必要とする子どもの特性や困りごとへの対応方法などを記録する『岐阜市サポートブック』を作成した経緯があり、現在、児童向けに配布しているが、知らない方も多く、その概要を紹介した。今後、「親亡き後」・「緊急時」・「災害時」を見据え、本人の情報がまとめられたツールとして『（仮）岐阜市サポートブック(forever)』として、対象を広げ、大人にも配布していきける方向で見直しを検討している。記載内容や項目についての意見を伺うため、関係団体、関係機関、相談支援事業所等へ事前アンケートを実施し、その結果を報告した。また、それぞれの立場から「親亡き後」・「緊急時」・「災害時」を見据えた備えとして、どのようなことが大切なのか率直な意見を出し合った。</p>
成果	<p>親亡き後を見据えて、災害時の連携体制の確保や、電源の確保も備えとして必要であることを共有した。</p> <p>今後、『（仮）岐阜市サポートブック(forever)』を活用しやすいツールとしていくために、「保管場所をどうしていくか」、「主として誰が活用していくか」、「個人情報の記載方法などについて、取り決めがなされていると良い」等の意見が出た。また、追加すべき項目については、「具体的な使い方・書き方の記載例や緊急時に備えた情報、障がい者本人のできること・支援してもらいたいこと・その他本人の想いを記載できると良い」等の意見が出た。今後の活用に向けて、対象への周知方法、記載すべき項目の整理、支援者側との連携等について検討が必要である。</p> <p>出席者のアンケートから、「（仮）岐阜市サポートブック(forever)の内容を吟味し、記録を残すことの重要性について理解できた。」「継続して協議が必要な内容だと思う。」等の意見があった。</p>

◆第7回

日時	令和4年12月7日（水） 午後3:30～午後5:00
場所	市役所6-1大会議室
テーマ	緊急時・災害時に備えて
参加	関係団体 7名 関係機関 10名 一般・特定・障害児相談支援事業所 10名 指定管理、委託事業所 7名（合計 34名）
内容	<p>災害時、要配慮者を含む全ての住民が災害準備を地域で行うために必要なことを紹介しているDVD（「要配慮者の備えと避難行動」）を視聴し、障がいのある人が災害時に備えておくべきことを理解する場とした。岐阜市の防災対策（岐阜市総合防災安心読本、避難行動要支援者名簿、個別避難計画、指定福祉避難所開設の流れ）について知り、緊急時・災害時等を見据え、必要と思われる備えについて意見交換した。また、それぞれの立場から「親亡き後」・「緊急時」・「災害時」を見据えた備えとして、『岐阜市サポートブック(forever)』（案）に関して協議した。</p>
成果	<p>障がいのある人を含む要配慮者が災害時に避難する上で、避難所までの距離の遠さや避難所での電源の確保といった物理的な課題や、個別避難計画の未策定といった仕組み上の課題等があげられた。災害時に備えた事前の準備としては、日頃から地域や関係機関・団体等との関係作りに努めることのほか、『個別避難計画』や、『岐阜市サポートブック(forever)』の作成等により、必要な情報の集約や、緊急時・災害時を想定し、準備しておくことが大切である。『岐阜市サポートブック(forever)』については、記載内容や量、項目、普及方法等の課題が挙げられたため、災害時の備えとしても対応できるものを目指し、引き続き協議を行うこととした。</p> <p>出席者のアンケートから、「岐阜市総合防災安心読本が各世帯に配布されていること、避難所開設の流れ、福祉避難所の数、福祉避難所の備蓄や電源確保等の現実的な状況など岐阜市の現状について理解できた。」「多くの支援者が災害時の支援について悩んでいることが分かった。」等の意見があった。</p>

◆第8回

日時	令和5年1月24日(火) 午後3:30～午後5:00								
場所	オンライン (Zoom)								
テーマ	強度行動障がいについて								
参加	<table> <tr> <td>関係機関等</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>一般・特定・障害児 相談支援事業所</td> <td>17名</td> </tr> <tr> <td>サービス提供事業所</td> <td>31名</td> </tr> <tr> <td>委託事業所</td> <td>6名 (合計56名)</td> </tr> </table>	関係機関等	2名	一般・特定・障害児 相談支援事業所	17名	サービス提供事業所	31名	委託事業所	6名 (合計56名)
関係機関等	2名								
一般・特定・障害児 相談支援事業所	17名								
サービス提供事業所	31名								
委託事業所	6名 (合計56名)								
内容	<p>強度行動障がい児・者の支援においては、支援者一人ひとりの技術の向上だけでなく、専門的な支援や助言の下、チームで強度行動障がい児・者を支援できる体制を整備することが必要である。</p> <p>今回、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園より、「住み慣れた地域で専門的な支援や助言を受けるには」と題して、強度行動障がいの支援体制・人材育成に関する講演をいただいた。また、「岐阜市でチームを作っていくためには？」をテーマにパネルディスカッションを行い、今後の岐阜市における支援の在り方・チーム作りについて協議した。</p>								
成果	<p>強度行動障がいについてよく知ることが大切であるため、積極的な研修受講や支援経験の蓄積ができると良い。また、支援者間での情報共有が大切であり、事業所の枠を超えた連携体制があると良いとの意見が出た。現場の支援者のみの研修会だけでなく、管理者（法人）にも研修会に出席してもらうことで、研修を活かせる体制づくり、人材育成へつなげていくことができる。</p> <p>チーム作りを中心となって進めていく人物が重要であるが、今後の支援の在り方・チーム作りの検討のために、継続して協議していく必要がある。</p> <p>出席者のアンケートから、「他の地域での取り組みを知り、岐阜市では、どのように実現できるかといった視点を持つことができた。」「強度行動障がいを知ることの大切さ・支援の難しさについて勉強になった。」「包括的な支援体制を組む動きに賛成。」「今後、岐阜市が目指す障がい者支援の方向性が感じられた。」等の意見があった。</p>								